

## 親しみを感じる小学校のロゴ

A2201615 高田 優美

### 研究の背景

小学校の校章のモチーフは、学校やその地域に昔から関係がある植物や地名などを取り入れており、小学校の特徴を視覚的に表現している。しかし、会津若松市内の小学校の校章を調べると、松をモチーフにした校章が多く、校章だけでは各学校の違いや特徴が伝わりにくい学校もある。また、モチーフが複雑な形をしていたり、現在の小学校にはなかったりと小学生にとってイメージしにくいものとなっている学校もある。そのため、校章が現在の小学生や地域の人にとって、親しみが感じられないのではないかと考えた。そこで、本研究では、校章に込められた歴史やモチーフを取り入れつつ、今の小学校や地域の特徴を視覚的に伝えるための小学校のロゴを制作する。制作したロゴが校章よりも小学生や地域の人にとって親しみが感じられるものにする。

### 研究の目的

本研究では、会津若松市内にある19校の小学校のロゴを提案する。校章の由来やモチーフを踏まえつつ、各小学校が持っている特徴や学校独自で行っている取り組みなどの要素を取り入れた小学校のロゴの制作を行う。取り入れる要素は通っている児童でも描けるシンプルな形で表現する。また、式典や公式な書類などでは校章を使用し、名札やランドセル等に貼るステッカーなど小学生が毎日身につけるものにロゴを使用するものとして制作を行う。通っている児童や職員、地域の人がロゴを見ることで、校章よりも親しみが感じられることを目的とする。

### 研究のプロセス

1. テーマ設定(5月～7月)
  - ・会津若松市内の小学校の校章について調査
  - ・実際にロゴを取り入れている小学校の調査
2. 小学校への取材・サンプル制作(8月～10月)
  - ・校章の由来、学校の特徴や取り組み、地域とのかかわりについてなどの取材
    - 由来が残っていない学校もある
    - 学校ごとで地域とのかかわりに差があった
  - ・取材を元にサンプル案の制作
3. テーマの再検討(11月初め)
  - ・サンプル制作を通してテーマの再検討
  - ・不足な情報について再度、取材及び調査
4. ロゴマークの制作(11月～1月)
  - ・今までの取材やサンプル案を踏まえ、「親しみを感じるロゴ」の制作

## 成果物(完成作品)

### 会津若松市内 19 校の小学校のロゴ

(鶴城小学校、城北小学校、行仁小学校、城西小学校、謹教小学校、日新小学校、湊小学校、一箕小学校、松長小学校、永和小学校、神指小学校、門田小学校、城南小学校、大戸小学校、東山小学校、小金井小学校、荒館小学校、川南小学校、河東学園小学校)

### デザインの共通点

- ・校章の由来やモチーフを踏まえつつ、校章では表現されていない小学校の特徴をロゴにする
- ・今の小学校のシンボルとされている木や花、色などをデザインの基にする
- ・小学生でも描けるようなシンプルな図形で構成していく

### ロゴの使用例とデザインの留意点

(例)名札:スペースに合わせて小さくした際でも、モチーフ全体がつぶれないような構成にする  
ステッカー:切り取って貼る場合、切り取りが複雑にならないように構成する

### 制作途中のロゴ



#### コンセプト

謹教小学校のシンボルとされている花「しらはぎ」をモチーフに制作したロゴである。しらはぎの花言葉は「思案」ということから、児童たちがいろいろと考えながら学び成長する学校であるという意味をこめて制作した。色は謹教小学校のシンボルカラーである青と活発的に学ぶ学校のイメージから黄色を使用した。

## 考察

本研究は、小学生や職員、地域の人がロゴを見ることで、校章よりも親しみを感じられることを目標とした。親しみやすいロゴを具体的にどのように表現するか、校章と制作するロゴとの違いをどう出すかに悩み、限られた要素だけで表現するロゴデザインの難しさを実感した。また、今回の研究を通して、1つの視点だけで考えずに、視野を広げてデザインを考えていくことが大切であるということ改めて学ぶことができた。

プレ中間の時点でテーマをしっかり決めることができなかつたため、不十分な取材となつてしまい、制作にも大きく影響が出てしまった。全体を通して、自身のスケジュール管理の甘さと作業効率の悪さが本研究の反省点である。